

発達障害を手がかりとして考える、 行けないを行けるに変えるUDの船旅

発達障害を手がかりとしたユニバーサルデザインコンサルタント
橋口亜希子個人事務所
橋口亜希子

ユニバーサルデザイン社会を実現していくために

「発達障害を手がかりとする」

何が問題で
何に困っているのか

どのようにしたら
解決ができるか

目次

- ① 発達障害の「困りごと」
- ② いいところ発見！ 好事例紹介 「さるびあ丸」
- ③ 行けないを行けるに変える「UDの課題」

- ① 発達障害の「困りごと」

発達障害「公共施設利用」困りごと

- 人混みや大勢の人が苦手
- BGMや騒音、照明やデジサイなど情報が入りすぎてしまう
- 知らない人や周囲にいる人の視線が怖い
- 順路や利用方法など、暗黙知にあるルールがわからない
- 自分のペースで利用することができない(例えば、駅の券売機やATM)
- 大きな声が出てしまうなど、周囲の人に迷惑をかけることが怖い
- 不安になった時、気持ちを落ち着けられる場所がない

音や光、周囲の視線や匂いといった情報が
たくさん入りすぎてしまって困っている(感覚過敏)

© 2024 橋口 亜希子 個人事務所 All Rights Reserved.

発達障害「船旅」困りごと

- 電車やバスなどの他の交通機関とちがって乗り慣れていない
- 乗ってしまったら、次の港に着くまで途中で降りられない
- 逃げ場所がない
- 動き回ることができない
- 落ち着ける場所やプライベート空間があるかわからない
- 船の中にいると方向がわからなくなる
- 船酔い
- 長時間乗り続ける自信が持てない

© 2024 橋口 亜希子 個人事務所 All Rights Reserved.

発達障害「島旅」困りごと

- 非日常的な場所、初めての場所や慣れない場所が苦手
- どこに何があるのか、どんな場所なのか、事前にわからないと不安
- 普段と違うトイレに行くことができない、母子同伴・異性同伴
- どんなに行く施設の支援が充実していても、そこに行くまでの交通機関など、移動に困難さがある
- 島の人たちに我が子の言動を受け入れてもらえるか不安
- 狭い島コミュニティの中で、我が子の言動が噂になる、冷たい視線で見られる、拒絶されるのではないかと不安になる

行きたくても、行けないとあきらめている人たちは多くいる！

© 2024 橋口 亜希子 個人事務所 All Rights Reserved.

ユニバーサルデザインとバリアフリーのちがいは？

ユニバーサルデザイン2020行動計画(関係閣僚会議)によると、

○ユニバーサルデザインとは？

障害の有無、年齢、性別、人種等にかかわらず**多様な人々が利用しやすいようあらかじめ都市や生活環境をデザインする**考え方。

○バリアフリーとは？

建築分野において段差等の**物理的障壁の除去を指すことが多い**が、より広く障害のある人の**社会参加を困難にしている社会的、制度的、心理的な障壁の除去という意味**でも用いられる。

© 2024 橋口 亜希子 個人事務所 All Rights Reserved.

ユニバーサルデザイン2020行動計画

● 心のバリアフリーのポイントの3つ目

③自分とは異なる条件を持つ多様な他者とコミュニケーションを取る力を養い、すべての人が抱える困難や痛みを想像し共感する力を培うこと。

③の力については、中でも障害のある人の尊厳を大切に、合理的配慮を行うことができる力を身に付けるために、障害についての基礎的知識や障害の状態に応じた接し方(身体障害者補助犬を同伴した人及び身体障害者補助犬に対する接し方を含む)の基本の習得に取り組むべきである。

特に、**情報を「受け取る」「理解する」「伝える」の各段階において障害のある人がいることを十分に理解**した上で、**情報保障を行う**等、そうした人が排除されることのないような社会を創りあげていく必要がある。

なお、コミュニケーションの方法には、言語(手話を含む)、文字の表示、点字、触覚を使った意思疎通、拡大文字、利用しやすいマルチメディア並びに筆記、音声、平易な言葉、朗読その他の補助的及び代替的な意思疎通の形態、手段及び様式があり、これらを踏まえた**情報のバリアフリーを進めていくことが重要**である。

障害者差別解消法と発達障害

◆ 法の対象範囲

対象となる障害者は、障害者基本法第2条第1号に規定する障害者、即ち、「身体障害、知的障害、精神障害(発達障害を含む。)その他の心身の機能の障害がある者であって、障害及び社会的障壁により継続的に日常生活又は社会生活に相当な制限を受ける状態にあるもの」である。

これは、障害者が日常生活又は社会生活において受ける制限は、身体障害、知的障害、精神障害(発達障害を含む。)その他の心身の機能の障害(難病に起因する障害を含む。)のみに起因するものではなく、**社会における様々な障壁と相対することによって生ずるもの**のいわゆる**「社会モデル」**の考え方を踏まえている。したがって、法が対象とする障害者は、いわゆる**障害者手帳の所持者に限られない。**

今年4月1日から合理的配慮の提供が義務化！

困りごとを解決する「UDポイント」

3つの視点から考える

事前学習という
「情報保障」

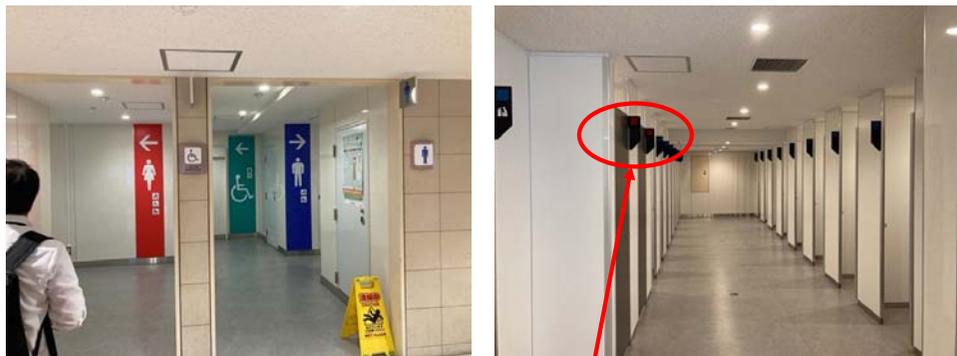
プライベート
空間の担保など
「環境調整」

ダメと言わない
機会・環境

② いいところ発見！ 好事例紹介「さるびあ丸」

感謝！ターミナルトイレ「わかりやすい案内」

- ・ターミナルから船、そしてターミナルへと移動は連続している
- 「移動の連続性」の中で「わかりやすい案内」が連続していることも大事



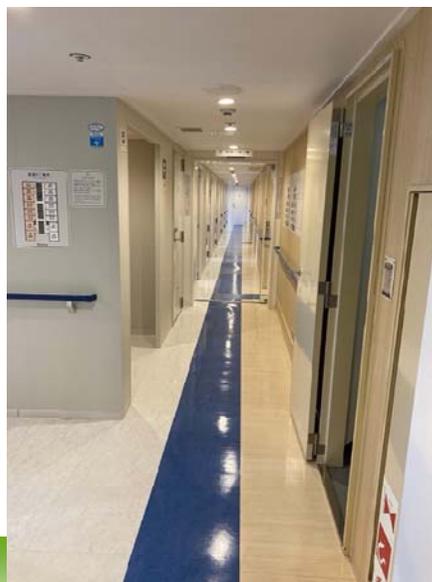
満空表示

感謝！船内EV「わかりやすい案内」



- ・ピクトグラムがわかりやすい
- ・情報過多でない
- ・自分がいるフロアがわかりやすい

感謝！船内通路「ぶつかりにくい床の色分け」



- ・客室利用者がドアを開ける「滞留エリア」
- ・人が歩く「移動動線」
- 分かれていることで歩きやすい
- 利用者同士がぶつかりにくい

感謝！1等室「わかりやすいプライベートエリア」



- ・隣の人が気になる！
- パーティションで顔の部分が隠れる
- 床の青い部分でプライベート空間が保てる

感謝！特1等室「共有エリアとプライベート空間」



© 2024 橋口 亜希子 個人事務所 All Rights Reserved.

感謝！特2等室「プライベート空間」



- ・通路と滞留エリアがわかりやすい
- ・カーテンでプライベート空間担保

© 2024 橋口 亜希子 個人事務所 All Rights Reserved.

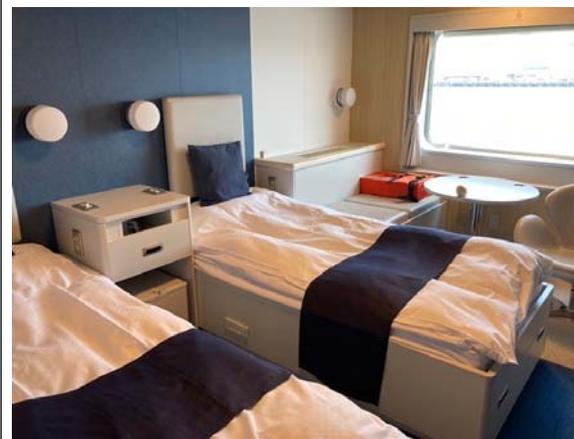
感謝！2等椅子席「プライベートエリア」

- ・ロールスクリーンでプライベートエリアが確保できる
- ・端の奥席は落ち着きやすい場所ともいえる



© 2024 橋口 亜希子 個人事務所 All Rights Reserved.

感謝！特等室「完全個室」



- ・周囲に気を使わないですむ
 - ・他者に迷惑をかけない
- 完全個室があることは大きな安心

© 2024 橋口 亜希子 個人事務所 All Rights Reserved.

感謝！船内でみつけた「落ち着けるベンチ」

- ・ちょっと休める場が必要
- ・カームダウン・クールダウンスペースとしてベンチは有効



© 2024 橋口 亜希子 個人事務所 All Rights Reserved.

あったらいいな♪「カームダウン・クールダウン」

- ・この写真は「授乳室」
- 同じ仕様でカームダウン・クールダウンスペース欲しい



© 2024 橋口 亜希子 個人事務所 All Rights Reserved.

動画から考える「UD旅のポイント」

交通エコロジー・モビリティ財団



事前に何をやるのか予定がわからないと不安、見通しが立たないことに不安になってしまう
困りごとがある人には、情報保障として「事前に情報を提供すること」が大切であることなど、
公共交通機関など事業者向けに作成した「ユニバーサルデザイン旅の手引き」動画

© 2024 橋口 亜希子 個人事務所 All Rights Reserved.

③ 行けないを行けるに変える「UDの課題」

© 2024 橋口 亜希子 個人事務所 All Rights Reserved.

【わかりやすい対応法が記載 国土交通省】

「知的障害、発達障害、精神障害のある方とのコミュニケーションハンドブック」

- 困っている人がいることに「気づく」
- 話しかける、聞く、説明する「コミュニケーション」
- 緊急時の対応など

基本の対応（緊急時・異常時の対応①）

地震・災害が発生したら？

心構え

避難のために、避難誘導の指示が伝わらない人がいることを前提とした取組が必要です。

避難ポイント

声をかけて、状況を伝え、安全な場所へ誘導します

- 誘導の指示がわからずつろつろしていたら、声をかけて周囲の状況や避難誘導の内容を伝えます。
- 避難誘導の指示を理解できないときは、係員が付き添って安全な場所へ誘導します。（→目的地への移動：P11 参照）

避難ポイント

パニックになっている人がいたら、安全を確保した上で、誘導します

- まず、生命の危険を回避し、ケガ等を生じないように対応し、やさしく「大丈夫ですよ」と声をかけ、避難誘導をします。（→パニック時の対応：P8 参照）



アートから考える「感覚過敏 疑似体験動画」

東京藝術大学DOOR制作



男女共用トイレから考える「アイキャッチアート」

TOTO

2023 年度グッドトイレ選奨『奨励賞』受賞！
今後のトイレのあり方「社会的活動部門」



“保護者のトイレを待ちきれない”子どもたち。
発達障がいの専門家と、子どもが楽しく待てるアイキャッチとなるアートを考案

環境調整の基礎となる「社会モデルとは？」

ユニバーサルデザイン2020行動計画(関係閣僚会議)によると、

○障害の社会モデルとは？

「障害」は個人の心身機能の障害と社会的障壁の相互作用によって創り出されているものであり、**社会的障壁を取り除くのは社会の責務である**、とする考え方

→治すべきは障害者個人ではない、環境である！

○「狭義の社会モデル」を実現しているイギリス

障害者も社会の一員である以上、社会変革の責務を果たすことを大前提として、

「環境改善の責任は“すべて”社会の側にある」

→社会モデルに基づき、さまざまなところで「**Everyone is welcome**」を実現している

もういいか減に「医学モデル」はやめませんか？

発達障害を手がかりとして考える
ユニバーサルデザインで大切なことは
大きく分けて3つ

プロセス

常に
発展途上

正解は
ない